

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 2月8日放送分 「こだわりのギターづくり」～長野・より良い音で勝ち残りを目指す～

2月8日放送分 「こだわりのギターづくり」～長野・より良い音で勝ち残りを目指す～

2月8日(TX・TVO)

9日(TVA・TVH・TVQ・RCC)

10日(BSJ)

長野県のモーリス楽器製造(株)(資本金10百万円、従業員45名)は、日本で数少ないアコースティックギターの製造会社。

自社ブランド「モーリス」の名を冠したギターを30年以上に渡り生産しつづけている。

不況の中、市場が縮小したにも関わらず、常にユーザーの声に耳を傾け、より良い音を奏でるために必要な伝統の素材、独自の製法で丁寧なギターを製造する。

同社の「より高品質の製品づくりに力を入れ、積極的に市場を開く努力」を見る。

「こだわりのギターづくり」

～長野・より良い音で勝ち残りを目指す～

[視聴覚教材No. TV14-45](#)



長野県松本市にきた志垣さん。その手に持っているのはモーリスギター。このモーリスギターに多くの人が憧れる理由とは。

こちらがモーリスギターを製造しているモーリス楽器製造株式会社の森平社長。





モーリスギターの特徴の一つは弾きやすいこと。なぜならば、ジャンルに分けて、奏法に分けて作っているから。こうやって並んでいるギターも一つ一つが違う。

POINT: ジャンルに分けて作り分ける



ジャンルに分けて、奏法に分けて作るために、モーリスではプロをはじめとした演奏する人達の意見を聞いている。「深く調べてマーケティングしている」とは森平社長。

POINT: マーケティングを楽器作りに活かす



モーリスで行われているのは品質を第一に考えたこだわりのギター作り。木の癖が出ないように1年ほど寝かせる。



化学合成接着剤ではなくニカワを使って接着。



釘を使わないアリミゾ工法。



「魂を込めて作るしかない」極端な機械化をしていないモーリスでは社員が自らの手で、ギターに魂を込めながら作っている。



全ての工程が手作りによるモデルを担当する横山さんは18歳の時からギター作りに携わっている。「これで良い。というのが無いと思う。同じ木でも全部音が違う。」とギター作りの難しさを語る。

モーリスでは技術者を派遣して中国工場でもギターを製造している。しかし、中国工場から直接、出荷するわけではなく、入念な検品作業を行ってから出荷をする。



モーリスがギター作りのアドバイスを受けているプロアーティストの中川イサトさん。



モーリスでは失敗を繰り返しながら、その声に応えていった。

「ビジネス優先ではなく良いものを作ろう。これに尽きる。そういうものって後々ずっと残る」と語る中川さん。そして、「良いものを作ればお客さんも後からずつついてきてくれる」と森平社長

POINT: 良いものを作れば残すことができる



[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN